●プロフィール

■制作（マネージメント・構成・編曲・司会）／松本憲治

東京芸術大学音楽学部卒業。声楽を専攻しつつ作曲を高田三郎、島岡譲、また早川正昭の各氏に師事。現在オーケストラ、オペラ、合唱の指揮、多様なジャンルの作・編曲、オペラ、演劇、アートステージの演出など、様々な地域での市民のための文化芸術制作を幅広く実施している。現在中国新聞文化センター講師、など。平成17年広島市より広島文化賞（個人賞）、平成27年廿日市よりさくら賞、同年広島県より広島県地域文化功労者表彰。

■演奏者

○工谷明子／ソプラノ

愛知県立芸術大学音楽学部音楽科声楽専攻卒業。卒業後日本声楽家協会で研鑽を積む。第10回全日本高等学校声楽コンクール広島県大会第一位。大学在学時、定期演奏会及び卒業演奏会に選出。第12回さくらぴあ新人コンクール第二位。2013年ソロリサイタル開催。2023年マツダスタジアムで国歌独唱をつとめる。現在は合唱指導やコンクールの審査員等にも携わる。廿日市市在住。

○今井千晶／ヴァイオリン

愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻（音楽学）卒業。日本音楽学会中部支部例会にて卒業論文を発表。エリザベト音楽大学大学院器楽科（ヴァイオリン）修了。現在、エリザベト音楽大学非常勤演奏副手、助手、瀬戸フィルハーモニー交響楽団団員、はつかいちジュニア弦楽合奏団“NOZOMI“インストラクター、はつかいち室内合奏団“SA･KU･RA“ 団員。

○阿曽沼裕司／チェロ

広島市出身。愛知県立芸術大学音楽学部卒業。桐朋学園大学音楽学部研究生修了。東京音楽大学大学院科目等履修生修了。これまでにチェロを森純子、天野武子、河野文昭、松波恵子、マーティン・スタンツェライトの各氏に師事。第17回日本クラシック音楽コンクール入賞。在学中、「室内楽の夕べ」、「定期演奏会」や公開マスタークラス、JTアートホール主催「期待の音大生によるアフタヌーンコンサート」など様々な機会に選抜され出演。広島アーティスト協会正会員。エリザベト音楽大学非常勤副手。あきクラシックコンサート実行委員会会長。

○大下由紀江／ピアノ

広島市出身。東京音楽大学付属高等学校を経て、同大学ピアノ演奏家コース卒業。ポーランド国立ワルシャワショパン音楽大学研究科修了。東京、広島、スペインにてリサイタル開催。ポーランドやルーマニア室内管弦楽団とコンチェルト共演。「国際ピアノコンクール inローマ2008 」第3位。現在、安田女子大学 非常勤講師。広島サンプラザカルチャークラブ 伴奏ピアニスト。 広島アーティスト協会正会員。

■ステージスタッフ／檜垣伸郎

長く、主に照明スタッフとして篠本照明株式会社に所属し、照明プランの他、舞台全般の舞台監督業務に携わる。現在フリーの舞台監督として様々なコンサート、イベントの制作進行業務に関わっている。

ボランティアスタッフ募集中

各種イベントにスタッフとして参加したい人や、誰かの応援をしたい人を募集しています。

一般社団法人海田町文化スポーツ協会

～美しいメロディー～

世界の名曲コンサート

美しく青きドナウ

広い年齢層の地域住民を対象に、
人類共通の財産である「クラシック」と
言われる芸術音楽を親しめる内容で、
人の心の豊さ、深さ、素晴らしさ、
そして地域の人々の共生を
音楽を通して感じるコンサート

日　時　令和８年６月２８日（日）
13:30開演（13:00開場）

会　場　織田幹雄スクエア ホール

主　催　一般社団法人海田町文化スポーツ協会

後　援　海田町教育委員会

～美しいメロディー～

世界の名曲コンサート

美しく青きドナウ

●プログラム　　解説：松本憲治

1）**楽興の時 D780**／F.シューベルト（1797～1828）　・ピアノ独奏

シューベルトが 1823～1828 年にかけて作曲した 6 つの曲集の 3 番目のヘ短調の曲。彼の存命中も、今も、世界中で愛されている曲で、子供のピアノ発表会でも子供たちが喜んで挑戦して弾いています。

2）**シチリアーノ**／M.T.パラディス(1759～1824)　・ヴァイオリン独奏

パラディスはオーストリアの盲目の女性の作曲家、ピアニスト、歌手だそうです。この作品は「彼女の作曲であろう」と言われている曲。全体、とても穏やかな気品ある雰囲気の中、時に気持ちが昂揚して歌い、また穏やかに閉じます

3）**感傷的なワルツ Op51-6**／P.チャイコフスキー（1840～1893）　・チェロ独奏

1882 年、チャイコフスキー42 歳の時の作品。元はピアノ曲ですが、この哀愁を帯び、時に激しく、またもの想いを思わせるメロディーは、一度聴くと忘れられません。本日はチェロの独奏で。

4）**メヌエット・ト長調**／J.S.バッハ（1685～1750）　・ヴァイオリン・チェロ二重奏

「メヌエット」はバロック、古典期の「三拍子」の舞曲ですが、今日はバッハのよく知られているメヌエットをヴァイオリンとチェロの二重奏で。まず、よくご存知のト長調のメヌエット、そしてト短調のメヌエット。最後はミュゼットと呼ばれる舞曲です。これらはバッハ妻、アンナのピアノ練習のために作曲したもの。

5）**美しく青きドナウ**／J.シュトラウス 2 世（1825～1899）　・三重奏

シュトラウス 2 世の「三大ワルツ」（他の二つは「ウィーンの森の物語」「皇帝円舞曲」）としてとても有名な曲です。元は合唱＋大オーケストラ二管編成の曲ですが、今日はヴァイオリン、チェロ、ピアノの三重奏で。

6）**平城山・びいでびいで**　・ソプラノ+三重奏

／詩：北見志保子、北原白秋・作曲：平井康三郎（1910～2002）

西洋の影響を受けつつ、日本芸術歌曲は独自に日本的な表現を目指します。「平城山」は奈良の北部にある山。日本の古典の香り漂う歌曲。「びいでびいで」とは、小笠原諸島に自生する赤い花。軽快で可憐な恋の歌。

7）**北秋の**／詩：清水重道・作曲：信時潔（1887～1965）　・ソプラノ独唱

歌曲集「沙羅」の三曲目。この歌曲集は 1935 年作詩、1936 年作曲されたもの。信時潔は日本の近代芸術音楽の揺るぎない伝統を作った作曲家。清水重道は東京帝大国文科卒の若き俊英で、二人とも東京音楽学校（現藝大）の教授を経験している。古典的格調の中で歌われる恋の歌。

8）**ちんちん千鳥**／詩：北原白秋・作曲：近衛秀麿（1898～1973）　・ソプラノ独唱

この曲は 1921 年（大正 10 年）童謡雑誌「赤い鳥」に掲載された元は童謡。「赤い鳥」主宰の鈴木三重吉は「童謡といえどもあくまでも芸術性高く」という主義。童謡がそのまま抒情性深い日本芸術歌曲になっています。この曲も歌い継がれていく名曲。

9）**アヴェ・マリア**　・ソプラノ＋三重奏

／詩：W.スコット・作曲：F.シューベルト（1797～1828）

この歌は元々は叙事詩「湖上の美人」につけられた「エレンの歌」の第三番。父親と共に難を逃れ、洞窟に隠れた少女エレンが、聖母マリアに救いを求める歌。シューベルト晩年のこの歌曲は名曲として現代まで広く歌われています。

10）**朧月夜**／詩：高野辰之・作曲：岡野貞一（1878～1941）　・ソプラノ＋三重奏

大正 3 年の尋常小学校文部省唱歌。「三拍子」という外来のリズムを用い、地域の暮らしの中の自然と人に対する慈しみと共生感溢れる詩。明治期の後半から大正初期にかけて作られたいわば「官製」の唱歌と「民の自由な感情を歌った」童謡は、その後の我が国の大衆音楽、また芸術音楽の基礎となった貴重な文化芸術財産です。

11）**瀬戸の花嫁**／詩：山上路夫・作曲：平尾昌晃（1937～2017）　・ソプラノ＋三重奏

1972 年発表の小柳ルミ子によるヒットソング。明るく穏やかなメロディーと、瀬戸内の小島を背景に、嫁ぐ女性の心情を歌い、今でも、特に瀬戸内の間近に住んでいる私たちには、明るくホロリとさせる名曲です。